

コロナ禍の中、着用が日常化したマスクをモチーフにしたアート作品「マスクアート」のポートレート写真をオンラインを通じて募集している。横浜などを拠点に子どもたちにアートの面白さを提供する活動を行うアート団体「LITTLE ARTISTS LEAGUE (リトル・アーティスト・リーグ)」が、フランス発の「マスクアート」を制作するプロジェクト「MASKBOOK」に取り組み、「コロナと共存する世界」をアートで表現している。(高橋 円)

マスクアート

■ LITTLE ARTISTS LEAGUE

オンラインでポートレート写真募集



3人の作品「JELLFICATION」。新しい形のつながりをクラゲの触手で表現した。左からルミコ・ハーモニーさん、磯部エイミーさん、望月実音子さん。撮影：Nanako Koyama

「コロナと共存する世界」表現

「MASKBOOK」は2015年、パリで開催された国連気候変動枠組み条約第21回締約国会議(COP21)から生まれた共同プロジェクト。フランスを拠点にアートで環境問題に取り組む団体「Art of Change 21」と中国人アーティストのウェン・ファンが、大気汚染や地球温暖化、ごみ問題など健康と環境に関するテーマをマスクをモチーフに表現する取り組みを始め。同プロジェクトは現在、世界50カ国以上、6千人以上が参加し、日本からは建築家の安藤忠雄さんが参加するなど、各国の著名人も携わってきた。

今回は新型コロナウイルス感染症のパンデミック(世界的大流行)を機に、世界中からオンラインで参加者を募る企画を新たにスタート。日本では開催中のヨコハマトリエンナーレの応援プロジェクトとして、「LITTLE」がその窓口を担っている。

バイリンガルの3人はこれまで英語でのワークショップやイベントなどを行ってきたが、コロナ禍で2月に降予定していたすべての催しが中止になった。創設者の1人、ルミコ・ハーモニーさんは「自宅はそれぞれ横浜や都内と離れていて、3人と

も子育て真っ最中。日頃から打ち合わせはすべてオンライン会議システムを活用していたので、コロナ前後で変化はなく、困ることはありませんでした」。4、5月の自粛生活期間中に独自の企画を模索した結果、「マスクアート」にたどり着いた。

6月に入り、インターネットで「MASKBOOK」の話題を偶然見つけたメンバーの望月実音子さんは「これだ!」と思ったと振り返る。すでにメールを送り、1週間後には日本での展開を任せたいと返事が来たという。磯部エイミーさんは「コロナ禍で先が見えない不安を感じる今こそ、表現できるアートがそこにあった。ウィルスを介して、人と人、日本と世界がオンラインでつながることができると続けた。

同プロジェクトは老若男女、1人から家族や友人といったグループまで誰でも参加できる。マスクは家庭にある不用品をリサイクルして制作する。3人は「今起こっている社会問題をアートで表現することで、個々が感じた不安や恐怖、孤独感を昇華して、生きる糧にしてほしい。この機会に自分と向き合い、ほかの作品を見て、さまざまなことを知って感じて、次の行動につなげてほしい」と、参加を呼び掛ける。



「Covid-19」(新型コロナウイルス)をテーマにした作品。口の高さにあるジッパーを閉めることで、ボール状のウィルスの侵入を防いでいる



「LITTLE」に参加する横浜市在住の親子の作品。ペットボトルのキャップをマスクに付け、海の生き物のためにポイ捨てやプラスチックの使用削減を訴えた



オンラインギャラリーに並ぶ作品

■12月31日まで受け付け。寄せられた作品は随時オンラインギャラリーに展示する。詳細は応募フォーム <https://forms.gle/5egftSJNJo2nAvaF7> 問い合わせは lal.maskbook@gmail.com